

記念講演

アメリカにおけるリカバリー志向サービスへの変革： 当事者の自主的な意思決定のための運動の経験から

アーミー・マウラ（ペンシルベニア南東部メンタルヘルス協会）

座長：高橋清久（公益財団法人精神・神経科学振興財団）

第5回目を迎えるリカバリーフォーラムの基本テーマは「リカバリー志向サービスへの転換～当事者参加による社会的意思決定」ですが、このテーマにまさにぴったりのゲストが記念講演会の講師として招かれ、初日の最初の講演をされました。その講師はペンシルベニア南東部メンタルヘルス協会の新しい当事者の自律的意思決定ケア（SDC）プロジェクトのプログラムマネジャーを担っているアーミー・マウラさんで、現在フィラデルフィアで行われている SDC プロジェクトの詳細をお話されました。例年のことですが、今年も久永文恵さんの名通訳を通じて 1000 名にならんとする大聴衆に大きな感動と希望を与えてくれました。

このSDCプロジェクトは現在進行中ですが、以下のような仮説があります。すなわち、このサービスを受ける人をリクルートして、サービスを受けていない当事者と比べてみると、より高いレベルのエンパワメント、リカバリー、QOL（生活の質）を体験し、あらたに高いレベルの地域参加を実践し、その結果より自立した生活を送ることができ、かつ費用の高い急性期サービスに頼ることがすくなくなるのではないかという仮説です。アーミーさんはその仮説を実証するような多くの例を紹介されました。

さて、プロジェクトの内容ですが、低所得者用公的医療保険を財源とし、個々の当事者の希望に基づきリカバリープランに沿ってお金が支給されるという仕組みです。支出額が承認されると、SDCカードというクレジットカードに類似したものが発行され、それを持ち歩いて一般の人が使うクレジットカードと同じようにいつでも自由に使えるというものです。外見も日本で使われている普通のクレジットカードと同じです。カードは健康・住居・教育・趣味その他の活動など生活の領域をカバーするものならば何にでも使えますが、アルコールや違法薬物、銃、ポルノなどはもちろん禁止です。

このように当事者が自己の夢や希望を叶えるべく目標を自己決定し、その実現に向けてお金を計画的に使い、社会参加を果たしてゆく過程が当事者の自律性を著しく高めるのでしょう。当然ながらこれらの過程は自己責任のもとで進みます。そのさまざまな段階でリカバリーコーチが支援者としてかかわっているのです。

リカバリーコーチとは、WRAPなどが含まれたピアスペシャリストの研修を受けた認定ピアスペシャリストであり、ピアに対してロールモデルの提供もしています。SDC プロジェクトではリカバリーコーチはピアサポーターであり、かつケアマネジャーの役割も果たしているわけです。

昨年のリカバリーフォーラムではマシュー・フェデューリーチさんが認定ピアスペシャリストについて詳しくお話をされましたが、認定スペシャリストの活躍の場はSDCプロジェクトのようなものにも広がっていることが良く分かりました。

日本では現在ピアスペシャリストがどんどん育っており、その制度化が議論されているところですが、ひょっとすると近い将来SDCプロジェクトのような活動が展開されるのではないかといった夢を私たちに与えてくれたアーミーさんのご講演でした。

《高橋清久（公益財団法人精神・神経科学振興財団）》